

中原区 ソーシャルデザインセンター 説明会

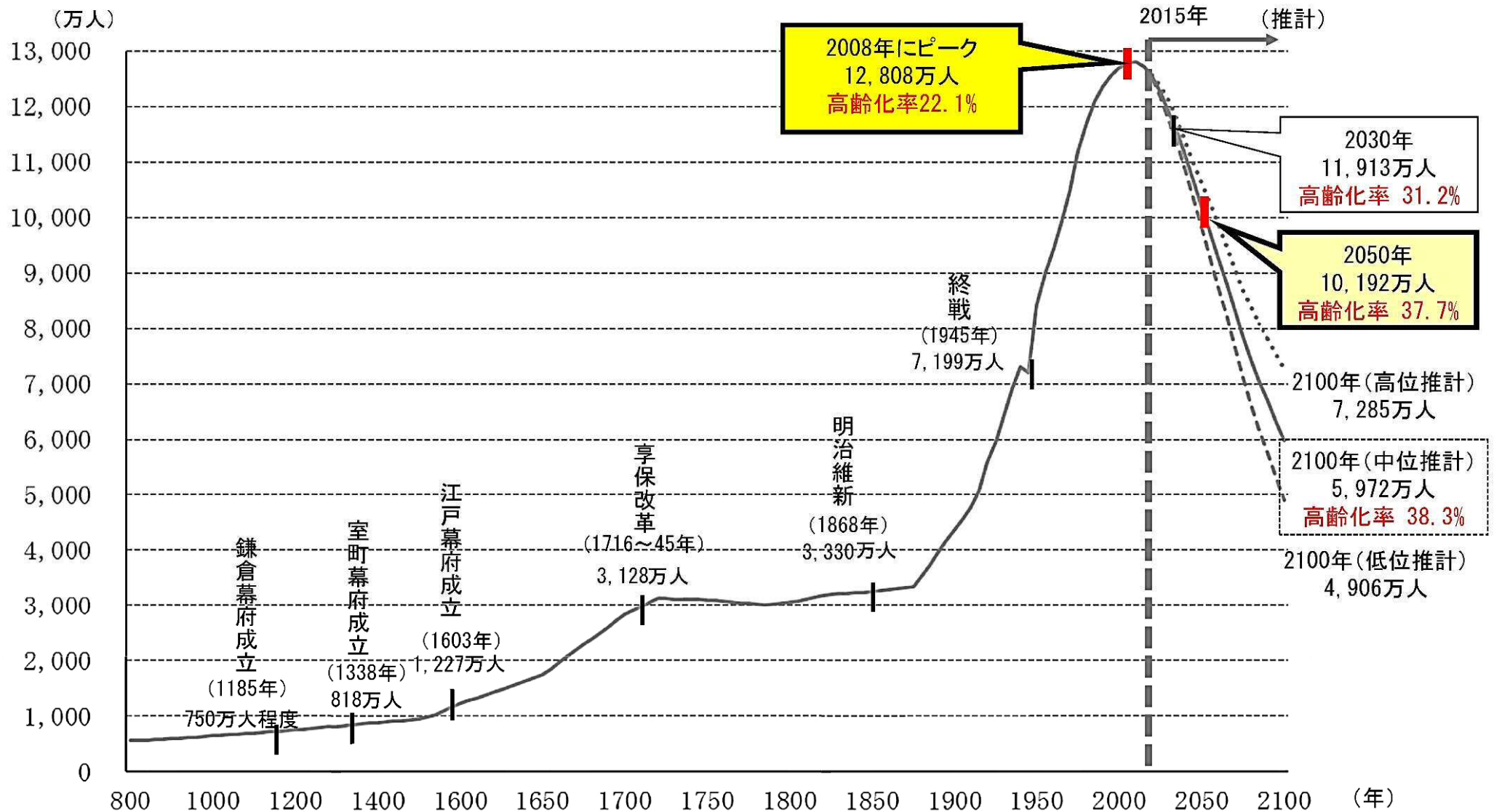
中原区役所まちづくり推進部企画課

令和3年7月16日(金)18時30分開会

次第

1. 中原区ソーシャルデザインセンター
創出に向けた説明（30分程度）
2. 質疑
3. 今後について
4. 意見交換

日本全体で生じている環境の変化

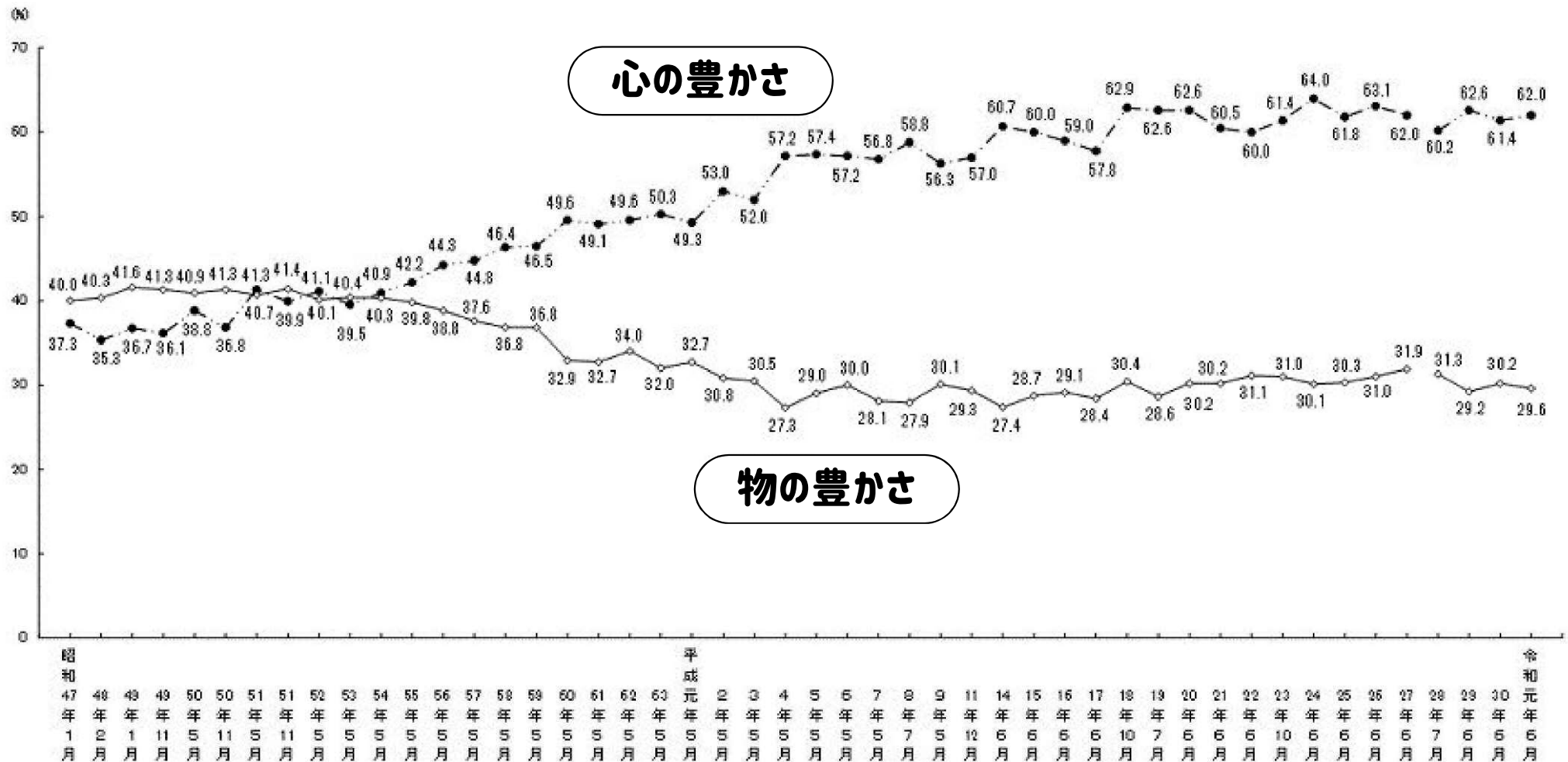


(出典) 1920年までは、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、1920年からは総務省「国勢調査」。なお、総人口のピーク(2008年)に係る確認には、総務省「人口推計年報」及び「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」を用いた。2020年からは 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」を基に作成。

日本の人口は2008年をピークに減少傾向、2050年に1億人にまで減少する見込み

社会の成熟とともに変わる価値観

内閣府「国民生活に関する世論調査」から



(注1) 心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」
物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」

(注2) 平成27年6月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。平成28年7月調査から19歳以上の者を対象として実施。

「物の豊かさ」より「心の豊かさ」を重要と考える国民の数は増えている。

右肩下がりの経済の中で課題や価値観が複雑化

超高齢化

都市のスポンジ化

ヤングケアラー

孤育て

孤独死

ダブルケア

新しい生活様式

テレワーク

SNS

SDGs

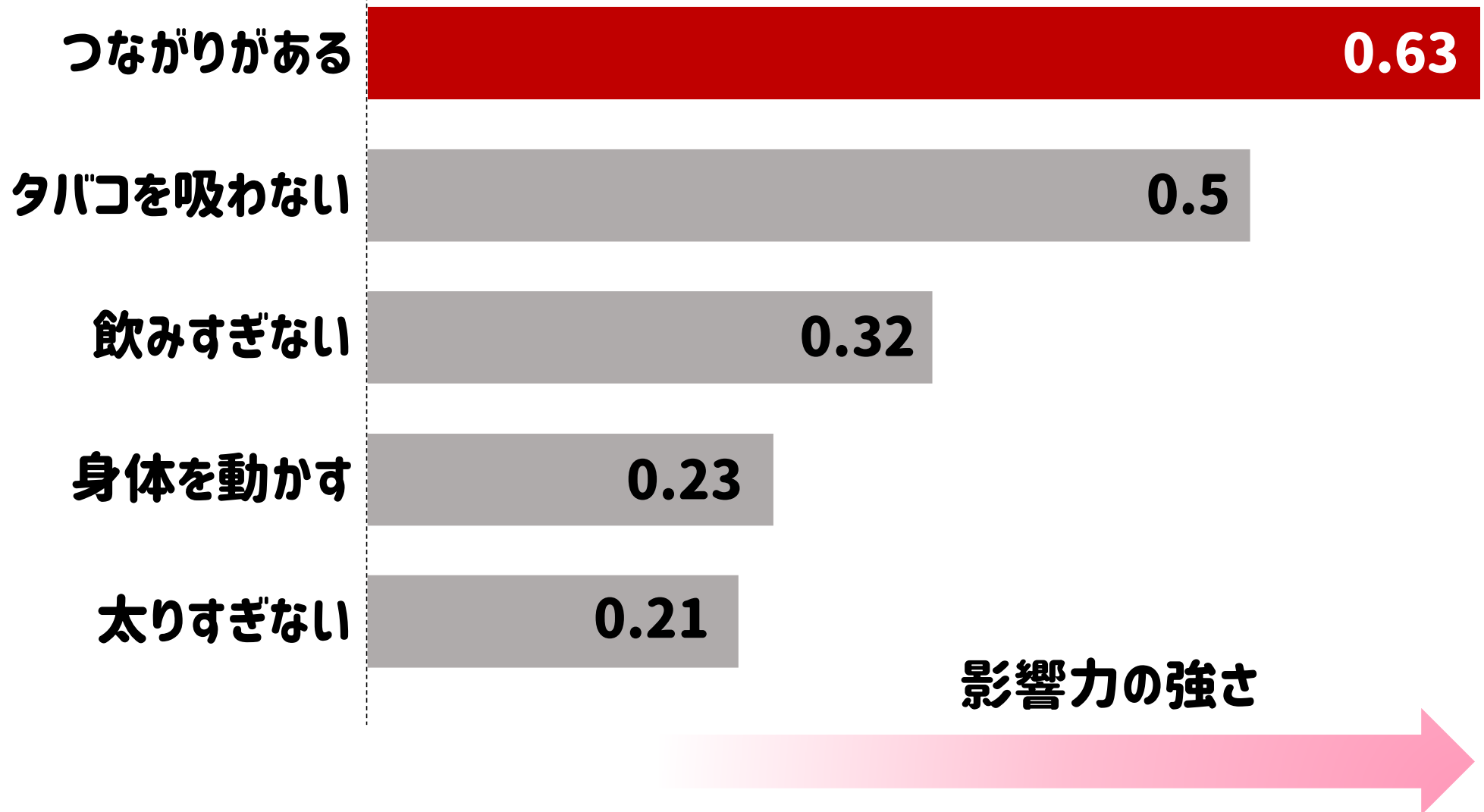
人生100年

災害時に痛感する
昔ながらの何か

おひとり様

つながりはタバコよりも寿命に影響する。

死亡と生存のオッズ比

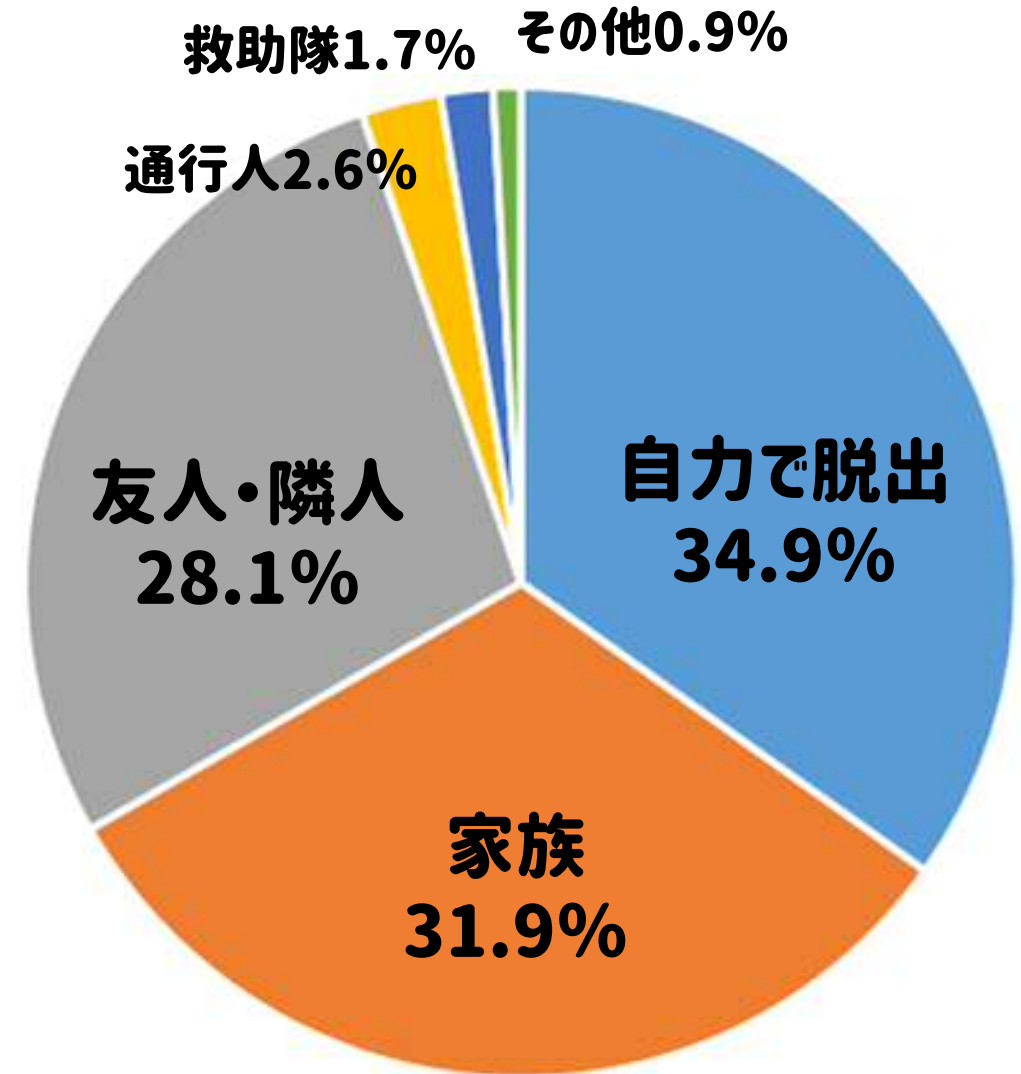


「友達の数で寿命は決まる」石川善樹2014 を参考に作成

災害時にはつながりが頼りになることも。

大震災の時、生き埋めや閉じ込めの際に救助してくれたのは？

1996年に神戸市が行ったアンケートでは「今後の災害に備えてしておかなければならないこと」という設問に対し「普段からご近所や地域の人々との付き合いを深めておくこと」という回答が最も多かった。

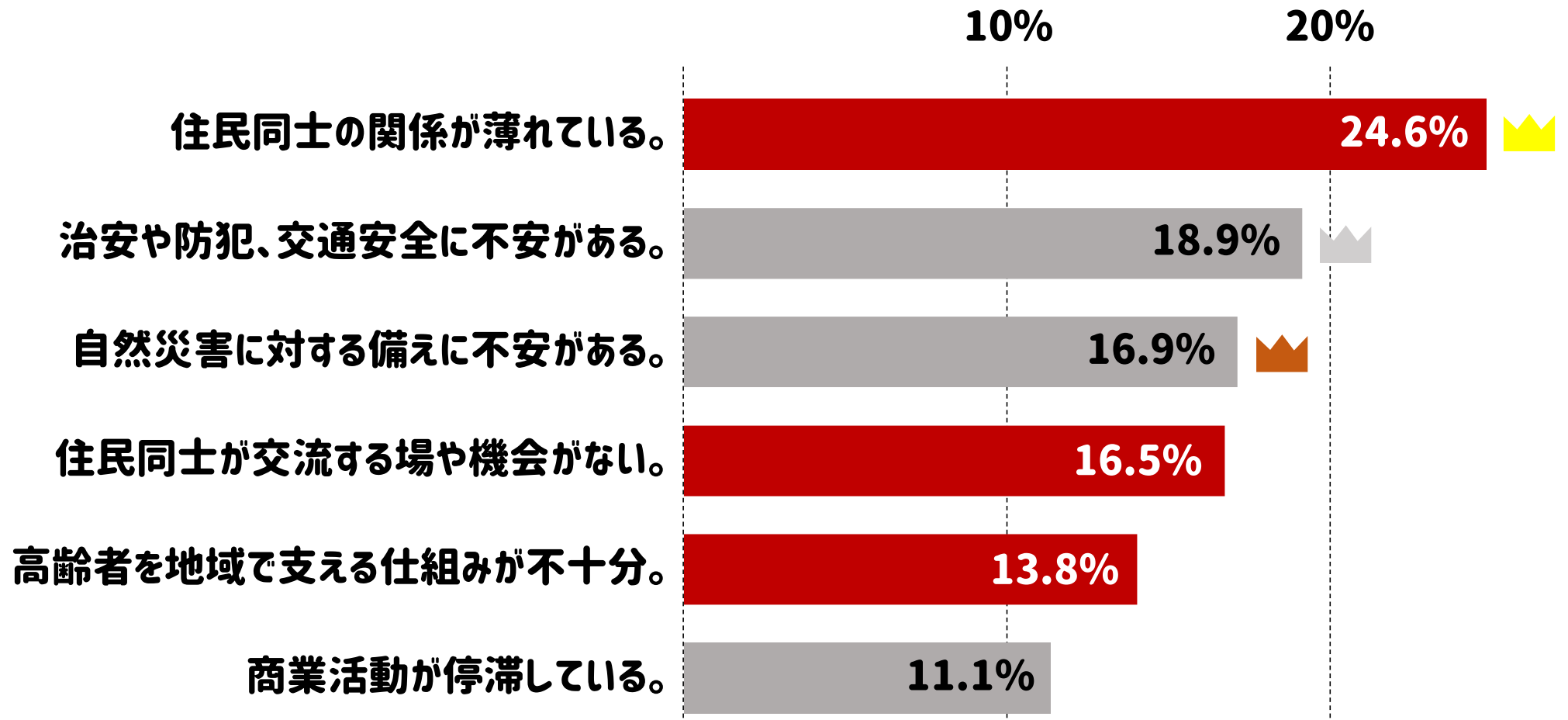


※「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より内閣府が作成

市民の皆様が多くが感じている問題

住んでいる地域において問題だと感じることは？ ※3つまで回答

《出典：平成29年度第1回かわさき市民アンケート報告書(全体版)》から抜粋



川崎市では、多くの市民が「つながり」が必要と感じている。

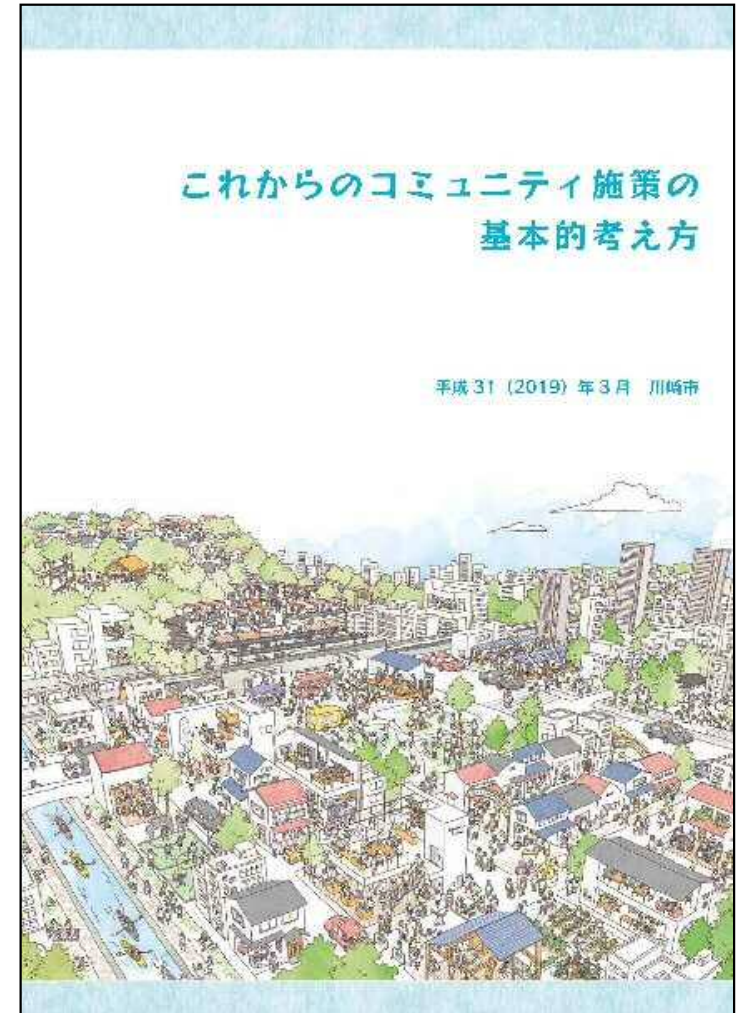
これからのコミュニティ施策の基本的考え方

【基本理念】

「市民創発」による市民自治と多様な価値観を前提とした「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成

【目的】

暮らしを取り巻く社会環境の変化を見据え、市民一人ひとりが多様なつながりをつくり、自分らしく幸せに暮らせる地域社会「希望のシナリオ」の実現をめざす。



2019年3月策定

基本的考え方の概要 ①

【特徴①】

基本的考え方と希望のシナリオを基に、方向性とイメージを市民の皆様と共有し、詳細は行政主導ではなく、

市民の皆様と一緒に考え 創り上げていく。

【特徴②】

市民と一緒に取組を創り上げていくにあたっては、新しい概念として **「市民創発」** 型のまちづくりを掲げ、総合的に施策を展開していく。

「市民創発」とは、様々な個人や団体が出会い、それぞれの思いを共有・共感することで生まれる相互作用により、これまでにない活動や予期せぬ価値を創出することです。

基本的考え方の概要 ②

【特徴③】

従来のような計画のように、目の前の課題を羅列し、それらを解決していくことで未来を描く形ではなく、あるべき理想を描きながら、その理想をいかにして実現すべきかを市民と一緒に考えていく、「**バックキャスト方式**」を採用している。

地域社会は複雑であり、個別の課題に対応していくだけでは市民の様々な力やアイデアを十分に結集できません。

マイナスをゼロにする視点だけでなく、ゼロをプラスにする視点も有効であることから、理想に向けて多様な参加者がアイデアを出し合い、協力し合いながら進めていくという概念を採用いたしました。

「基本的考え方」で主に川崎市が取り組むもの

① 3層制による取組

- ・ 地域レベルの取組として「**まちのひろば**」を創出する。
- ・ 区域レベルの取組として、**各区ソーシャルデザインセンター**を創出する。

② 区における行政への参加

- ・ 新しい「参加のしくみ」の構築

③ 町内会・自治会への支援

- ・ 加入促進や活動支援のための取組

④ 市民創発に呼応する行政の在り方

- ・ 公共施設の地域化、職員研修の充実

「まちのひろば」ってどういうもの？

- 「まちのひろば」の概念は幅広く、例えば3人集まれば既に「まちのひろば」ともいえ…要は「まちのひろば」は、地域のどこにでもあるものです。
- この「まちのひろば」が数だけでなく多様化することで、そこに関わった人がつながりの力によって幸せや健康にもなり、時に思いもよらない新たな動き（市民創発）さえ生まれてくると考えています。

市内にある多様な「まちのひろば」



駄菓子屋×子育て世代の交流



本屋×絵本の読み聞かせ



お寺×音楽イベント



コミュニティスペース×わいわいランチ

ソーシャルデザインセンター（SDC）とは？

○ 区域レベルのプラットフォーム

- ・ 地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、社会変革（ソーシャルイノベーション）を促す**基盤**のこと

変動する

不確実

複雑

曖昧

社会は複雑で不安定化しているため、明確な課題と答えという形ではなく、いかに多くの人々が協力して柔軟に対応できる仕組みを作れるかが重要になる。

SDCの主な機能

- ① 人や団体、企業、資源、活動をつなぐコーディネーター機能とプロデュース機能
- ② 支援のニーズ（活動支援、資金助成、相談、情報収集）とメニューの効果的なマッチング
- ③ 地域課題の解決を目指した社会実験の展開
- ④ 地域からの視点や市民の立場に立ち、助言や専門的知識を活かした技術的支援、課題提起等を行う機能
- ⑤ 人材育成（地域の担い手や社会的起業家など）
- ⑥ 「まちのひろば」への支援 など

地域課題を市民同士で支えあい解決するための機能といえます

SDC創出に向けた方向性

【運営】

- ・ 行政が事務局を担うことで柔軟で自由な活動が制限されるため、**市民主体の運営**を理想する。

【予算】

- ・ 行政による段階的な支援はあるものの、将来的には**自主財源による運営**を目指す。

【創出に向けた進め方】

- ・ 区ごとに地域の課題や人材・資源が異なるため、**区ごとのやり方**で創出に向けた検討を進める。

かつてない柔軟な方法や個性的なルートで取り組んでいます。



ちょっといいね、
もっといいね、を
はじめよう。

— 中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン —



ちょっといいね、
もっといいね、を
はじめよう。

川崎市では平成31（2019）年に「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」を策定しました。中原区はこの考え方に基づき、市民創発により課題解決を導く新たなしくみとなるソーシャルデザインセンターの創出に向けた取組を進めています。

これまで、主に地域活動に取り組んでいる方とソーシャルデザインセンターを創出するために必要な要素について、意見交換などを重ね、中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた案を下描きとしてデッサンを描いてみました。

このデッサンを何度も描き換えながら、これから一緒に“なかはら”らしいソーシャルデザインセンターを創りましょう。

これまでの検討

(1) 関係者ヒアリング（H31年度～）に区内外で市民活動等に取り組む人・団体へのヒアリング・意見交換会（R2年度）の実施

(2) ソーシャルデザインセンター検討プロジェクト、中原区地域包括ケアシステム・コミュニティ施策推進本部会議の実施

(3) 「中原区におけるソーシャルデザインセンター創出に向けたスケッチブック」作成（R3.3）

(4) 「中原区におけるソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン」作成（R3.5）

設置案

地域活動の主体ではなく、地域の活動を**支援するプラットフォーム（基盤）**として、地域のさまざまな人や取組について「知る」「集う」「つながる」機会をつくります。

場所

- ・ 中原市民館ラウンジに設置します。
- ・ オンライン上の場も作ります。

※中原市民館ラウンジは令和3年5月現在、利用できません

主体・運営

- ・ 興味、関心のあることで参加できる自由参加の場とします。
- ・ 参加者がそれぞれの資源を持ち寄り運営します。

機能

- ・ 情報発信、勉強会、交流会、相談会、シェアオフィスなど「知る」、「集う」、「つながる」を実践します。
- ・ 地域の方同士でコーディネートできる関係づくりを進めます。

機能案



知る

様々な方が知り合う
機会をつくります。

情報発信、地域活動の発表会
など



つながる

区民同士のつながり
作りをします。

相談会、オンラインサロン、
交流会など

地域の様々な
コミュニティが
連携します。



集う

オンラインの場や共有ス
ペースなどに“人だまり”
を作ります。

各種イベントなど

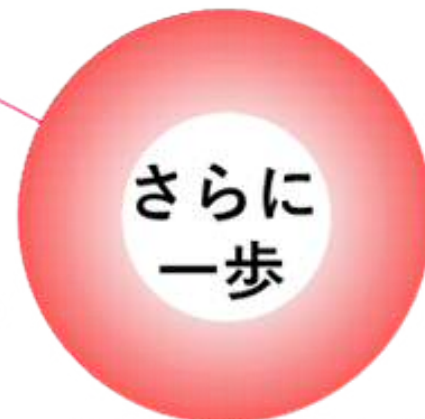


(仮称) 中原区
ソーシャルデザイン
センター



多様な主体が自由に参加する場とします

中原区役所はメンバーとして区
役所の持っている資源の提供
(実施場所の利用許可(減免)、
事業の共催、運営検討会の企画
など)を通じて関わります



さらに
一歩

参加する皆さんが「もっと
やってみたい!」と思うこ
とをみんなで協力しながら
実現しましょう。

4月15日 NEC玉川事業場公開空地



参考の取組

しもぬまべ共創プロジェクト

- 市若手職員のプロジェクトでN E C公開空地に「まちのひろば」を生み出すことを目的にスタートしたが、今はそれだけに留まらずN E Cと地域の方が集まり、やりたいことを話し合っている。
- slackでの情報共有、Z o o mで会議
- 区役所も一参加者。担当部署はない。
- それぞれの目的があって集まっている。
- こども食堂、木育、健康体操(パンジー体操)、夏祭り、ボッチャ、ダンス、宇宙授業など検討中。

PJに関わるプレイヤー（6月22日時点）

町内会

6町会
子ども会

商店街

飲食店
S接骨院

地域での活動

Yさん（ヨガ）
Iさん（灯り）
Kさん（キャンドル）
Oさん（サイレント
ディスコ）

ふれあい
食堂

木育

夏祭り
実行委員会

中原区

パンジー体操
In Unity
各課イベント等

NEC

レッドロケッツ
ダンサーズ
ボッチャ
宇宙授業
ラジオ体操
プロボノ
ユーモ

その他

JA（マルシェ）
ミニカワサキ

今後の進め方

説明会や意見交換会を
行いながら検討を進め
ます

検討を進めた皆さんと
ともにデッサンを修正
します

ソーシャル
デザイン
センター
創出

ソーシャルデザインセンターチャレンジ事業

※チャレンジ事業は、中原区役所が機能検証のために皆さんと協働で実施する事業です。





ご清聴ありがとうございました。

2. 質疑

「説明のここがよくわからなかった」、
「ソーシャルデザインセンターにはこれが欠かせないと思う」、
「こんなチャレンジ事業をやってみたい」等々
思ったこと、感じたことをなんでもおっしゃってください

会場で御参加の皆様

⇒挙手してください

Zoomで御参加の皆様

⇒チャットで投稿してください

3. 今後について

第1回意見交換会（予定）

- 日時

8月20日（金） 18時30分～19時30分

- 会場

中原区役所4階403会議室

- 議題

中原区ソーシャルデザインセンターの創出に向けた検討の進め方について

⇒開催内容が決定できましたら、お配りしたアンケート用紙に連絡先をご記入いただいた方あてに、ご案内させていただくほか、区HPで公表します。

4. 意見交換

- ① あいさつカードの記入
- ② 参加者の皆様同士であいさつと
自己紹介

4. 意見交換

① あいさつカードの記入

- ・ 2分程度で
- ・ 大きい字ではっきりと記入してください

4. 意見交換

②参加者の皆様同士のあいさつ

会場で御参加の皆様

- ・目が合った人、気になった人などとにかく多くの方と
- ・片手を挙げてあいさつのジェスチャーをして
- ・挙げた手を下しながらお互いの手があたらない距離で
- ・あいさつカードを見せ合う

※声を出さずに。でもマスクの下は笑顔で。

閉会

アンケートへの御協力をお願いいたします。

会場で御参加の皆様

- ・アンケートを御記入ください
- ・あいさつカード右上の番号シールを、出入口近くに掲示している中原区の地図上の関係しているエリアに貼り付けてください
- ・あいさつカードとアンケートを出入口にいる区職員に提出してください

Zoomで御参加の皆様

- ・アンケートをWordファイルのまま御記入ください
 - ・中原区役所企画課アドレス
(65kikaku@city.kawasaki.jp) へてに、あいさつカードとアンケートをメールで御提出ください
- ※あいさつカードはWordファイルが写真でお送りください

今日は
ありがとうございました

